

【第3回 佐賀県鳥インフルエンザ対策本部会議】 12月6日

農林水産部長／資料に入る前に、現場の状況を見てもらう。サポートセンターは、防護服の着用や資材の一時保管をする場所。右の写真は、防護服に氏名を書いているところ。左の写真は、消毒後、手袋を脱着しているところ。サポートセンターから農場への道は、暗いので投光機を使用した。鶏舎の近くに、作業が終わると防護服を脱着する農場外テントを設けた。

殺処分をした鳥や餌等の埋却地。左の写真が機械で穴を掘り、石灰をまいた状態。右は、処分した鳥をフレコンバッグに詰めて置いたところ。

農場内の写真。左が石灰を全面にまいて防疫作業に入っているところ。鶏舎の中は、採卵鳥がゲージに入っている。一羽一羽取り出して殺処分を行う。

次に、消毒ポイントの写真。左が一般車両ポイント。道路の下にマットを敷き、そこに消毒液を流し、その上を車両が通る。右は、養鶏関係車両用。鳥の餌を運ぶトラックなどが、ここに立ち寄り動噴で消毒をする場所。

遺伝子検査は、2種類実施する。5日21時15分、1種類目の検査でH5亜型のウイルスを検出した。もう1種類は、6日午前2時10分に検査が終了し、H5亜型の遺伝子を検出した。この結果を農林水産省に報告し、データとともに判定を依頼した。その後、農水省から擬似患畜決定の連絡を受け、本日5時から殺処分等の防疫措置を開始した。

殺処分は、8時現在3,625羽、進捗率12.1%。9時現在は、累計5,970羽、進捗率19.9%。埋却処分は、6時35分から開始。動員数は合計245名で、第1クールの防疫措置を行っている。

消毒ポイントの設置状況は、県内3か所。養鶏関係が2か所、一般車両は1か所。3か所とも5時から運用開始。

発生状況確認検査は、擬似患畜が決定すると、移動制限区域内の検査を行うことになっている。3km圏内に100羽以上の農場が1戸あり、家畜防疫獣医師が8時半から、臨床検査、抗体検査、ウイルス分離検査等を実施。

今後、殺処分を進め、埋却処分、覆土を行い、防疫措置に入る。鶏舎の壁や床、天井の徹底消毒。鶏舎以外の敷地の消毒後、全面に消石灰を散布する。鳥の餌や卵は、埋却処理をする。また、鶏糞は堆石発酵処理をする。これは、堆積し堆肥のように温度を上げて処理をする方法。

擬似患畜が発生し、家畜伝染病予防法に基づく知事の「消毒命令」を発出する。県内の鳥インフルエンザのまん延防止を図ることを目的に、県下全家きんの飼養農場に対し、本日から来年1月31日まで、農場内に消石灰を散布してもらう。

県土整備部長／消毒ポイントは朝5時から始め、順調に進んでいる。8時半までに、養鶏関係車両は0台、一般車両は164台通過した。

防災監／昨晚から、職員は懸命に取り組んでいる。始めは戸惑いや山間部で足場が悪かったため、1時間に300羽だったが、その後は2,000羽を超えるようになった。埋却地は、殺処分の始まる5時間前に準備が終わり、殺処分しながら、随時フレコンに詰め埋却地に運んでいる。夜間は冷え込むので、昼間にできるだけ作業を進めたい。

小松市長／武雄市は、サポートセンターでの補助や現場の交通誘導に当たっている。引き続き、現場と連携し努める。

知事／埋却場が隣接しているので、作業が順調に進む。

防災監／その影響は大きい。しかし、現場が山間部のため、サポートセンターとの距離があり、資材を運ぶのに少し手間取った。

サポートセンターには、午前3時過ぎから100人以上が集まった。

知事／本日、5時から始め、1クールが終わるのが13時。1クールに2つの部隊があり、2時間ごとに交代している。9時現在で、2つの部隊が一通り作業を終え、1クールの前半が終わったということ。この時点で、進捗が2割。計算すると、24時間以内に終わる可能性もあるが、無理はしないように。

第1クールのノウハウを第2クールの担当者に引き継いでもらうこと。殺処分は、精神的に辛い仕事だから、メンタルのフォローを健康福祉部でしっかり取り組むこと。

昨日より対応いただいた建設業協会、JA、武雄市職員の皆さん、なにより県職員の皆さんにお礼を申し上げます。本当に頭が下がる思いです。また、本日は農水省からもフォローアップしていただいた。感謝申し上げます。

今後、殺処分、埋却、さらに消毒作業と続く。一丸となって対処したい。なにより、他の地域に感染が広がらないようにしたい。安全第一でお願いします。

司会／第4回目の会議は、15時を予定している。